

格助詞や連体助詞の誤用実態や学習難易度について

関西学院大学 于康

1. 問題提起と研究目的

◆言語生成のメカニズムの研究は、大きく分けて、3つのアプローチがあるかと思われる。

- 1) 単一の言語を対象とする言語学的研究
- 2) 複数の言語の対照を基本とする言語学的研究
- 3) 言語習得のプロセスを基本とする言語学的研究

◆言語習得には、容易に習得されるものもあれば、なかなか習得できないものもある。習得には難易度が存在するのである。したがって、それぞれの習得のプロセスとメカニズムの究明が言語生成のメカニズムの研究にとって非常に重要なアプローチになるかと考えられる。特に、なかなか習得できないもの、つまり、バックスライティングや化石化といった現象が観察されるものに関するメカニズムの究明は、真っ正面から取り込まなければならない課題であろう。

◆言語習得の難易度の研究は、習熟度別の誤用データが必要不可欠であるが、これまでは、データ収集が非常に困難だったためか、なかなか研究が進んでいないのが現状であった。そこで、于康研究グループは、2014年から中国国内の大学40校から誤用のデータを集め、添削やタグ付与などの作業を経て、大型の『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コンコーダンサー2015』Ver. 4(テスト版)を構築した。現時点で、ファイル数は8,535、文字数は5,555,632、タグ数は63,684となり、誤用研究が十分可能な状態にある。

◆本発表は、『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コンコーダンサー2015』Ver. 4(テスト版)から集めたデータを対象に、格助詞や連体助詞の誤用実態学習の難易度を明らかにしたうえで、格助詞や連体助詞の誤用のサンプル研究を通して誤用研究のストラテジーを考えることを目的とする。

2. 誤用のデータ

○『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コンコーダンサー2015』Ver. 4テスト版を使用。

○データの分布は、学習歴別に分けると、次の表のようになる。

学習歴	ファイル数	文字数	タグ数
学習歴 3 ヶ月以上 1 年未満	559	190, 597	8, 516
学習歴 1 年以上 2 年未満	701	244, 331	6, 569
学習歴 2 年以上 3 年未満	320	214, 243	6, 225
学習歴 3 年以上 4 年未満	882	1, 351, 011	22, 527
学習歴 4 年以上 5 年未満	3, 066	1, 087, 669	7, 957
学習歴 5 年以上 6 年未満	1, 227	213, 689	1, 384
学習歴 6 年以上 7 年未満	376	1, 873, 972	5, 423
学習歴 7 年以上 8 年未満	81	31, 566	85
学習歴 8 年以上 9 年未満	362	83, 638	398
学習歴 9 年以上 10 年未満	235	51, 277	261
学習歴 10 年以上 11 年未満	760	183, 442	838
学習歴 11 年以上 12 年未満	105	30, 237	162
学習歴 15 年以上 16 年未満	3	680	3
8 級試験	145	67, 515	3, 660

3. 格助詞の誤用実態と学習難易度

3.1 誤用実態と学習難易度の全体像

格助詞の誤用数は 11, 310。図 1 は 500 例以上のデータの統計結果。

図 1 において、Y が正用表現、X が格助詞の誤用。

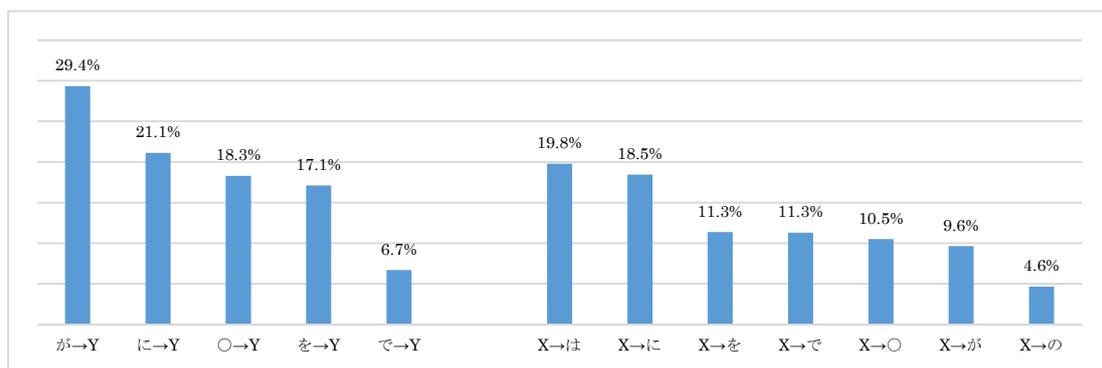


図 1

3.2 パターン別における格助詞の誤用実態と学習難易度

3.2.1 「が→Y」と「X→が」

「が→Y」の誤用数は 3, 320、「X→が」の誤用数は 1, 090。図 2 は、「が→Y」が 100 例以上、「X→が」が 30 例以上のデータの統計結果。

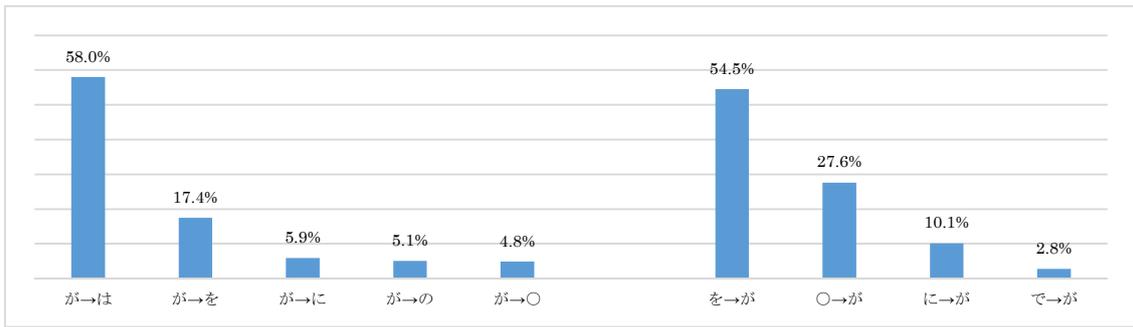


図 2

3.2.2 「に→Y」と「X→に」

「に→Y」の誤用数は 2,391、「X→に」の誤用数は 2,088。図 3 は、「に→Y」が 46 例以上、「X→に」が 26 例以上のデータの統計結果。

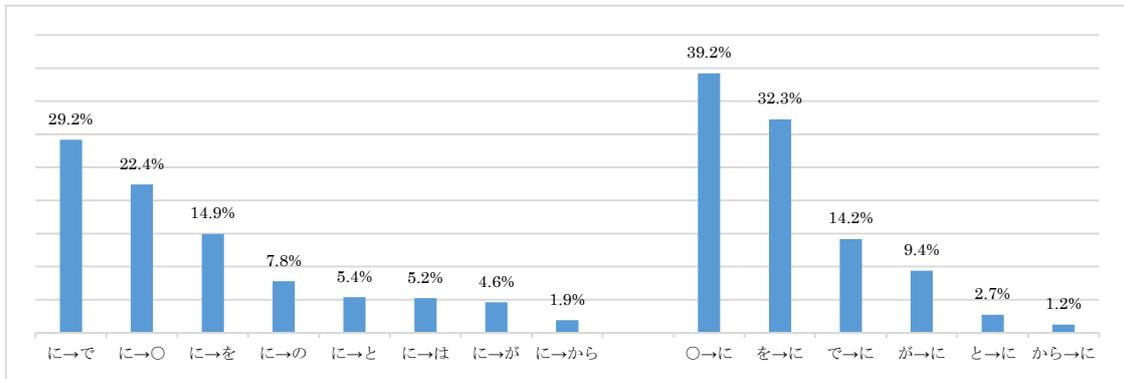


図 3

3.2.3 「〇→Y」と「X→〇」

「が→Y」の誤用数は 2,067、「X→が」の誤用数は 1,188。図 4 は、「が→Y」が 44 例以上、「X→が」が 26 例以上のデータの統計結果。

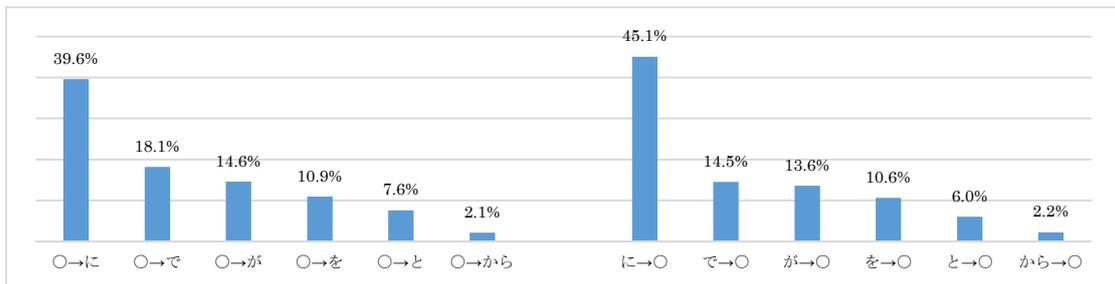


図 4

3.2.4 「を→Y」と「X→を」

「を→Y」の誤用数は 1,935、「X→を」の誤用数は 1,283。図 5 は、「を→Y」が 29 例以上、「X→を」が 26 例以上のデータの統計結果。

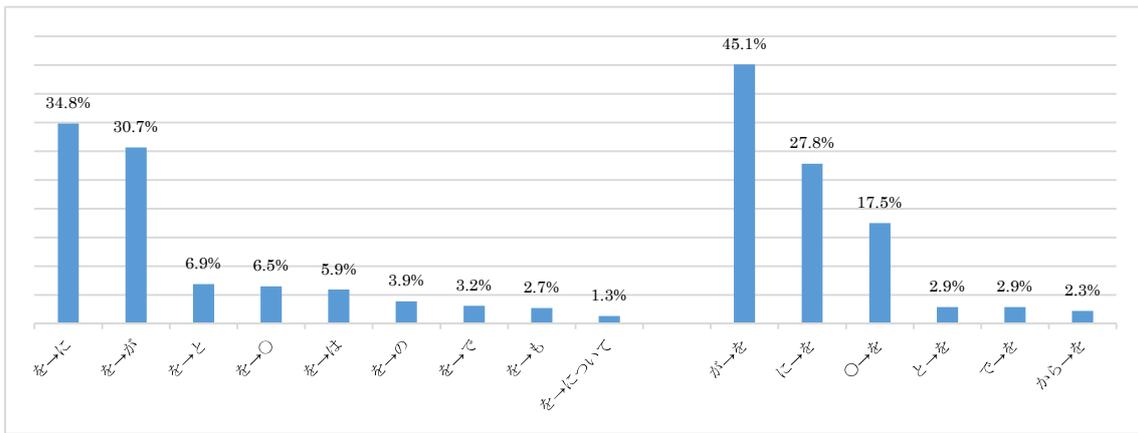


図 5

3.2.5 「で→Y」と「X→で」

「で→Y」の誤用数は 753、「X→で」の誤用数は 1,277。図 6 は、「で→Y」が 18 例以上、「X→で」が 20 例以上のデータの統計結果。

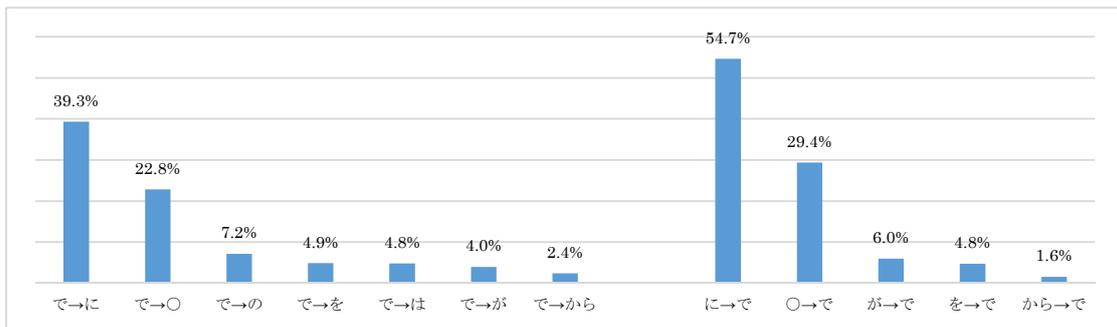


図 6

3.3 習熟度別における格助詞の誤用実態と学習難易度

3.3.1 学習歴 3 ヶ月以上 1 年未満

学習歴 3 ヶ月以上 1 年未満においては、格助詞の誤用数が 1,364。図 7 は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」が 30 例以上、「X（誤用）→格助詞（正用）」が 37 例以上のデータの統計結果。

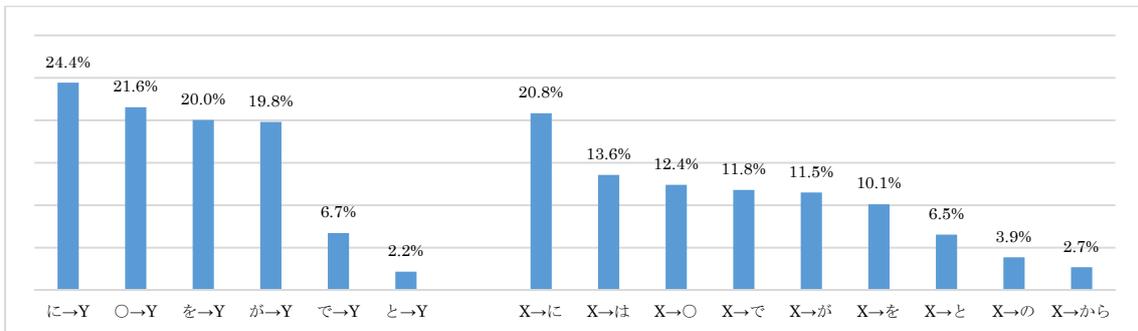


図 7

3.3.2 学習歴 1 年以上 2 年未満

学習歴 1 年以上 2 年未満においては、格助詞の誤用数が 1,233。図 8 は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」が 21 例以上、「X（誤用）→格助詞（正用）」が 34 例以上のデータの統計結果。

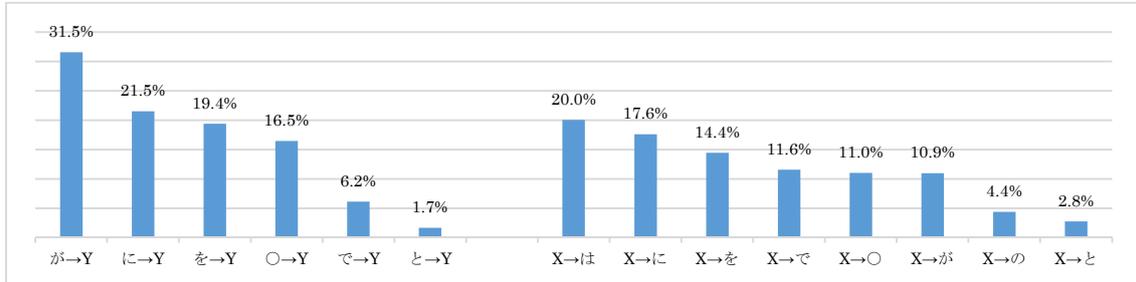


図 8

3.3.3 学習歴 2 年以上 3 年未満

学習歴 2 年以上 3 年未満においては、格助詞の誤用数が 1,142。図 9 は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」が 23 例以上、「X（誤用）→格助詞（正用）」が 46 例以上のデータの統計結果。

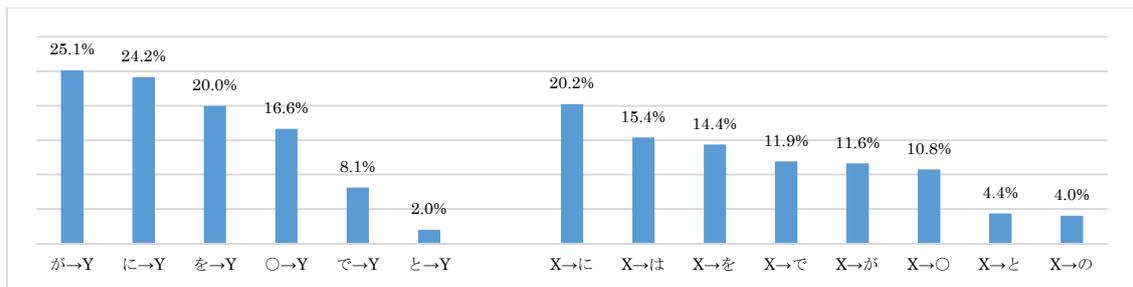


図 9

3.3.4 学習歴 3 年以上 4 年未満

学習歴 3 年以上 4 年未満においては、格助詞の誤用数が 3,891。図 10 は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」が 64 例以上、「X（誤用）→格助詞（正用）」が 55 例以上のデータの統計結果。

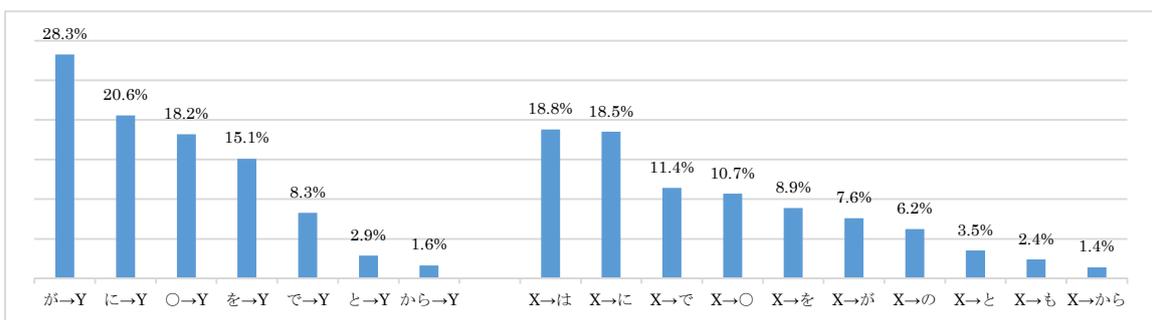


図 10

3.3.5 学習歴 4 年以上 5 年未満

学習歴 4 年以上 5 年未満においては、格助詞の誤用数が 1,518。図 11 は、「格助詞（誤用）

→Y（正用）」が 38 例以上、「X（誤用）→格助詞（正用）」が 46 例以上のデータの統計結果。

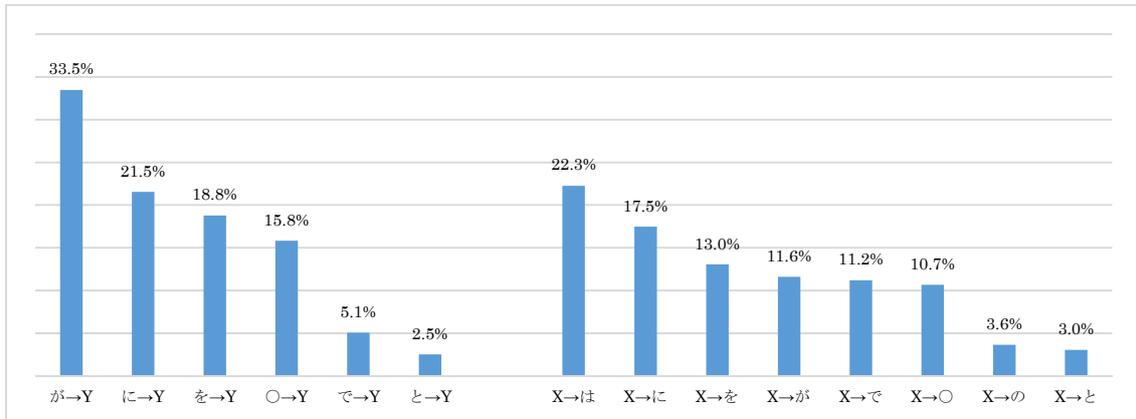


図 11

3.3.5 学習歴 6 年以上 7 年未満

学習歴 6 年以上 7 年未満においては、格助詞の誤用数が 1, 219。図 12 は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」が 44 例以上、「X（誤用）→格助詞（正用）」が 47 例以上のデータの統計結果。

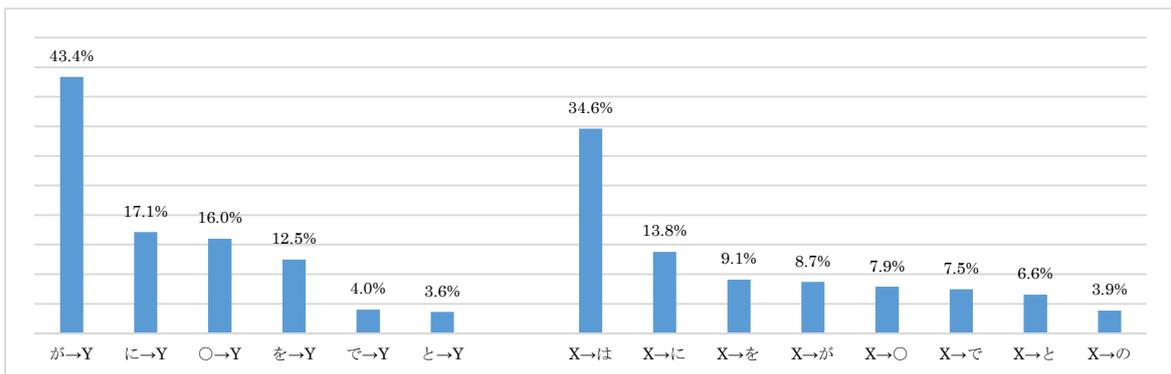


図 12

3.4 習熟度別における誤用の出現頻度と学習難易度の推移

図 13 は、「格助詞（誤用）→Y（正用）」における習熟度別の誤用の出現頻度と学習難易度の推移である。

図 14 は、「X（誤用）→格助詞（正用）」における習熟度別の誤用の出現頻度と学習難易度の推移である。

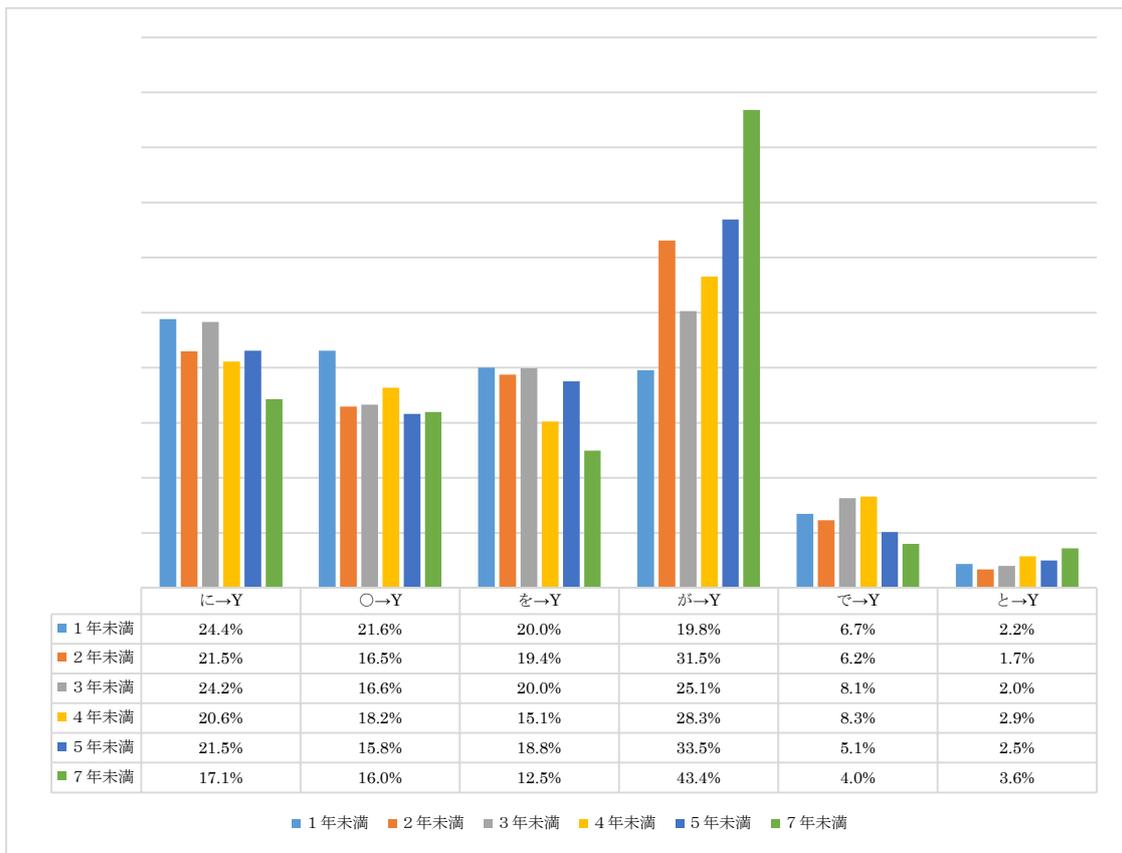


図 13

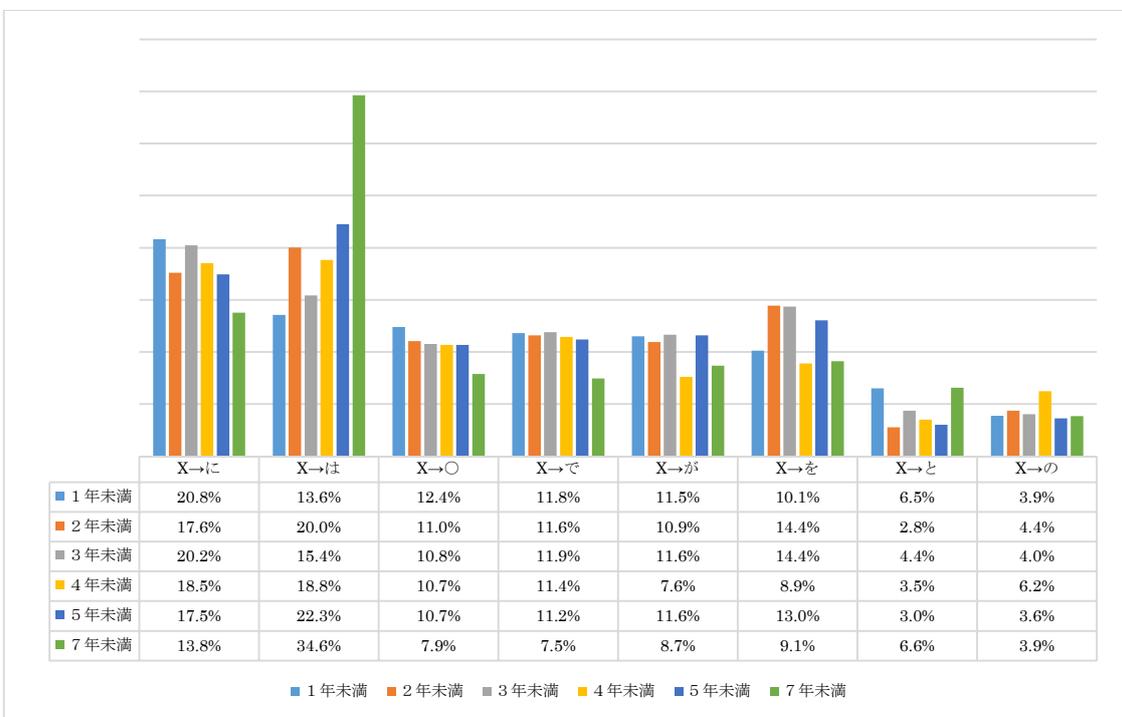


図 14

4. 連体助詞の誤用実態と学習難易度

4.1 「の（誤用）→Y（正用）」と「X（誤用）→の（正用）」における誤用実態と学習難易度

「の（誤用）→Y（正用）」の誤用数は 1,424、「X（誤用）→の（正用）」の誤用数は 1,257。
図 15 は、「の（誤用）→Y（正用）」が 60 例以上、「X（誤用）→の（正用）」がすべての用例のデータの統計結果。

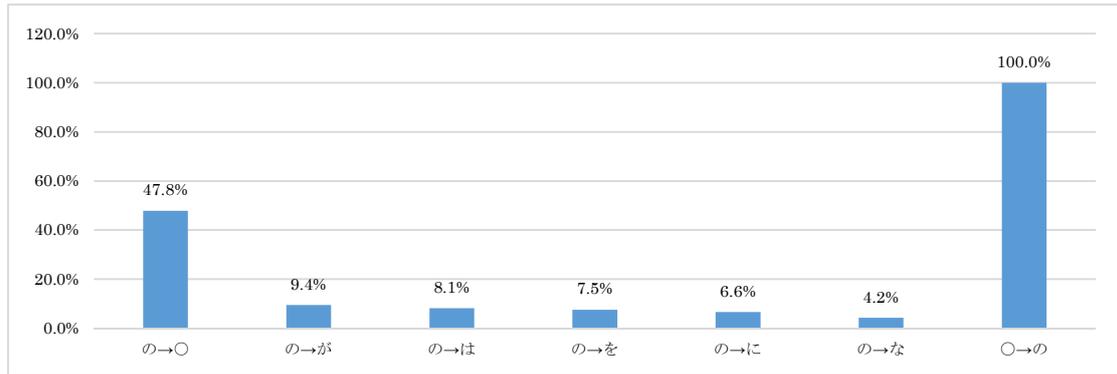


図 15

4.2 習熟度別における誤用の出現頻度と学習難易度の推移（1年未満～5年未満は10例以上のデータ、7年未満は7例以上のデータ）

図 16 は、「の（誤用）→Y（正用）」と「X（誤用）→の（正用）」における習熟度別の誤用の出現頻度と学習難易度の推移である。

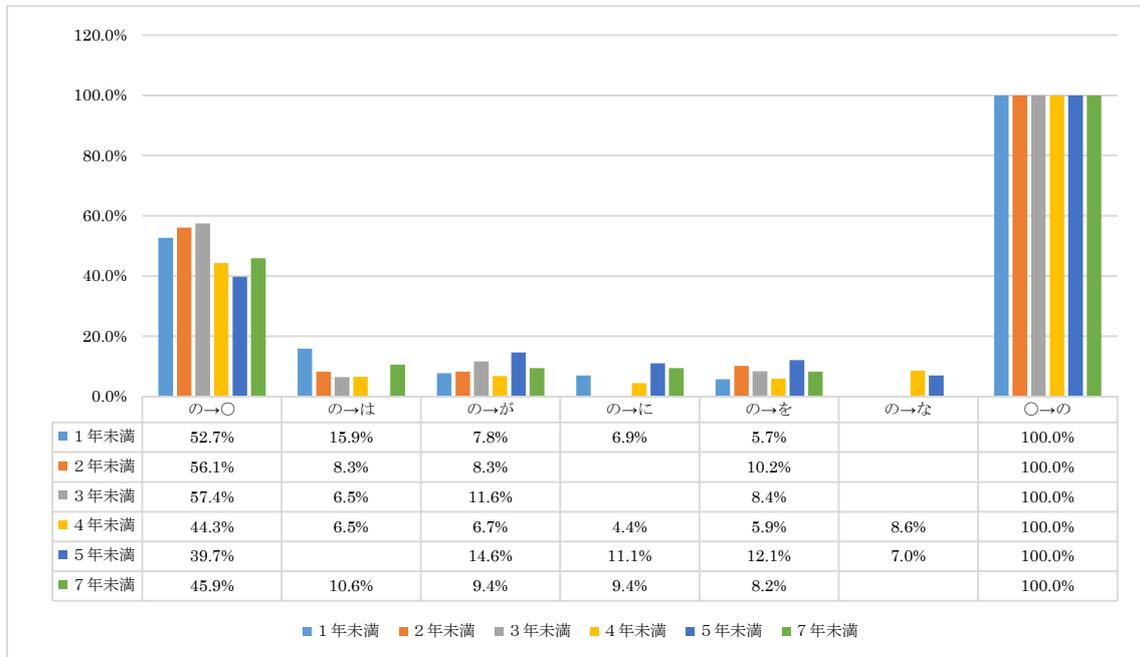


図 16

3.5 事例研究

3.5.1 「○→が」について

◆用例：

- (1) 地球温暖化の進行によって、台風など災害<○→が>頻発している。
- (2) しかし労働者にはこの好景気の分配はなく、労働者の給与は減少傾向<○→が>続きました。
- (3) これは、人間<○→が>進歩している代価でしょうか。
- (4) このような状況を見ると、我々中国の大学生<○→が>一年間で読む本はアメリカの大学生の一週間で読む本にも足りないじゃないか。
- (5) 両親<○→が>年寄りになったら、私は必ず彼たちと一緒に生活する。

◆分析：

用例（1）は、「NP が XP」型。

構文的には、事象叙述の表現は、基本的に「補足語一述語」という構造を有する。したがって、事象叙述の表現は典型的には無題文の形を取る（益岡 2000）。「対象語」は原則として「が」で表さなければならない（益岡 2000、森田 2002）。

用例（2）は、「[NP は] + [NP が XP]」型。

[NP が XP] が句。

用例（3）は、「[NP は] + [(NP が XP) NP だ]」型

[NP が XP] が句。

用例（4）は、「[(NP が XP) NP は] + [XP]」型

[NP が XP] が句。

用例（5）は、「[NP が VP たら] + [NP は VP]」型

[NP が XP] が句。

◆パターン化

I 型：「NP が XP」型

II 型：「[NP は] + [NP が XP]」型

III 型：「[NP は] + [(NP が XP) NP だ]」型

IV 型：「[(NP が XP) NP は] + [XP]」型

V 型：「[NP が VP たら] + [NP は VP]」型

A 型：文のレベルの「が」の不使用（I 型）

B 型：句のレベルの「が」の不使用（II 型、III 型、IV 型、V 型）

◆格助詞「が」の不使用は、主に 2 種類ある。

- a. 「事象叙述」や「現象文」における「が」の付与の取り落とし
- b. 従属節または句のレベルにおける「が」の付与の取り落とし

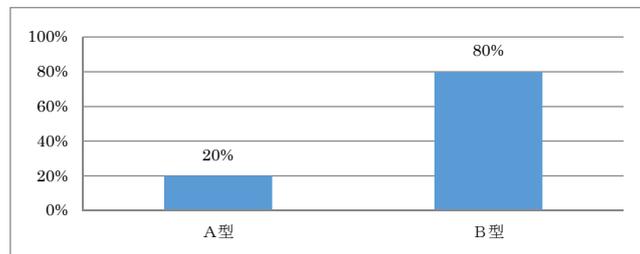


図 17

3.5.2 「○→の」について

◆用例：

- (6) 日本<○→の>男性と女性の人生価値は空のように広い差異がある。
- (7) 先週から韓国語<○→の>授業を受け始めた。
- (8) 佐藤充さんは災難の嵐<○→の>前に、自分の家族ではなく、中国人の研修生を先に救った。
- (9) 人間の死とは心臓<○→の>停止であることは自明のことだ。
- (10) 日本人の商談・交渉で<○→の>勢いはまず負けといえるでしょう。

◆分析

◇NP1 は 3 種類に分けられる（日本語記述文法研究 2009）。

- 1) 修飾名詞が非修飾名詞の所属先に当たるもの
(6) 日本<○→の>男性と女性
- 2) 修飾名詞が被修飾名詞の性質を表すもの
(7) 韓国語<○→の>授業
- 3) 修飾名詞が被修飾名詞の基準点に当たるもの
(8) 災難の嵐<○→の>前に

◇NP2 は 2 種類に分けられる（日本語記述文法研究 2009）。

- 1) 被修飾名詞が事態を表す名詞のもの
(9) 心臓<○→の>停止
- 2) 被修飾名詞が事態を表さない名詞のもの（格助詞との共起）
(10) 交渉で<○→の>勢い

◆「日本の記事」：①日本が持っている記事、②日本について書いた記事

◆ 「○→の」の誤用の実態

図 18 は、「の」の不使用における NP 1 と NP2 の種類。

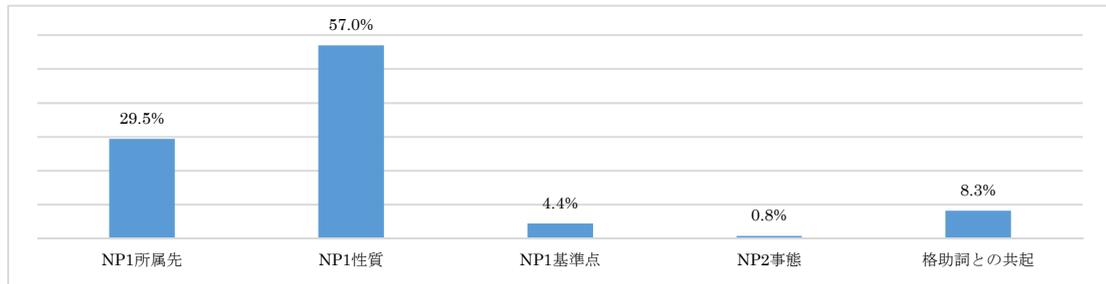


図 18

- (11) 両国<○→の>茶会の相違点がわかる。
- (12) 最後に主人公<○→の>運命の転回から見れば、
- (13) 私も日本でお寿司料理<○→の>店を開きたいんです。
- (14) 日本関連のたくさん<○→の>情報を手に入れました。
- (15) 昼ごはん<○→の>後、ちょっと休みます。
- (16) 気候<○→の>異変もますます深刻になり

◆ 図 19 は、格助詞と共起する場合における「の」の不使用の比率。

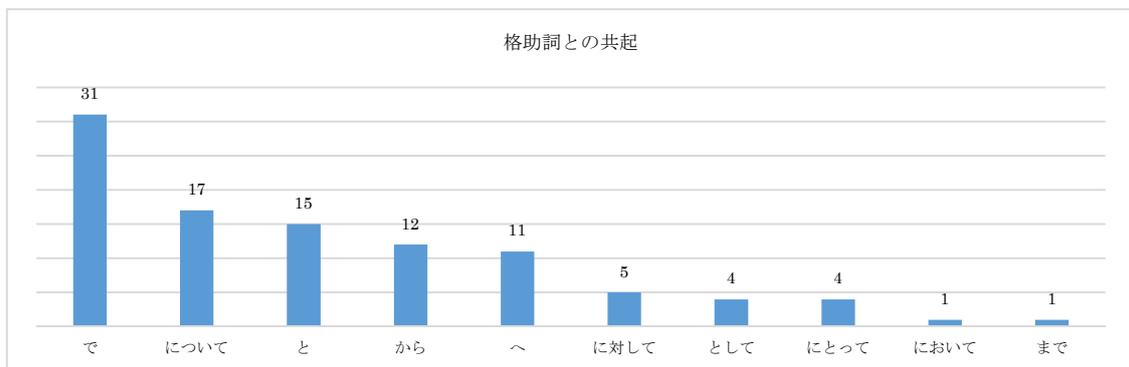


図 19

4. まとめ

次のようなことが明らかになった。

- ① 「格助詞（誤用）→Y（正用）」における誤用の実態
が→Y>に→Y>○→Y>を→Y>で→Y
- ② 「格助詞 X（誤用）→正用」における誤用の実態
X→は>X→に>X→を>X→で>X→○>X→が>X→の
- ③ 格助詞の学習難易度
が>に>不使用>を→過剰使用>で
- ④ 連体助詞「の」の誤用例において、誤用が最も多いのが「の」の不使用と過剰使用で

ある。

⑤「の」の学習難易度は、次のようになる。

修飾名詞が被修飾名詞の性質を表すもの > 修飾名詞が非修飾名詞の所属先に当たるもの > 修飾名詞が被修飾名詞の基準点に当たるもの

⑥格助詞と共起する場合における「の」の不使用の頻度は、次のようになる。

で>について>と>から>へ>に対して

⑦「○→が」と「○→の」の分析結果は、誤用のパターン化をはかり、規則性を見いだすのが誤用研究の必要不可欠の方法であることを物語っている。

参考文献:

益岡隆志 2000 『日本語文法の諸相』くろしお出版.

森田良行 2002 『日本語文法の発想』ひつじ書房.

日本語記述文法研究 2009 『現代日本語文法 2 第 3 部格と構文 第 4 部ヴォイス』くろしお出版.

于康 2011 統計から見る中国語母語話者の助詞の誤用, 『北研学刊』7号, 広島大学北京研究センター, 白帝社.

于康 2013 中国語母語話者の日本語学習者の「格助詞」不使用について—格助詞「が」の不使用を中心に—, 『言語と文化』第 16 号, 関西学院大学言語教育センター.

于康、田中良、高山弘子 2014 《加注标签软件与日语研究》浙江工商大学出版社.

于康 2014 《日语偏误研究的方法与实践》浙江工商大学出版社.

于康、田中良 2014 『中国語作文添削と指導—タグ付けプログラム TNR』好文出版.